

## 「私のすきなせい書」

東洋英和女学院小学部3年生  
大塚理名

私のすきなせい書の一つに、詩編55編23節があります。このお話は、神さまが私たちの痛みや悲しみをささえてくださるというお話で、今日の礼拝の時に先生がお話してくださいました。

私は、お友だちが苦しい時にかわいそうだなと思っても、それを本当に自分に起こったことのように感じることはむずかしいです。だから、そういうむずかしいことを自ぜんにできる神さまは、本当に気持ちがやさしいのだと思います。

それでも時どき、私にもお友だちの気持ちがわかる時があります。それは、自分にも同じことが起こったことがある時です。その時の自分の気持ちを思い出すので、本当に自分のことのようにお友だちの気持ちがよくわかります。神さまはたくさんの苦しいことを体けんしたから、みんなの気持ちがわかるようになったのでしょうか。

このお話を聞いてから、神さまをととても近くに感じて、強くなれる気持ちが出て、神さまのことが前よりも大すきになりました。神さまのみ言葉をいつも大切にしたいと思います。